

令和7年度 校内研究計画

1 研究主題

主体的、対話的で深い学びにつながる授業への指導法改善
～『学び合い』による授業実践を通して～

2 主題設定の理由

本校では、「自ら気づき、考え、判断し、主体的に行動する生徒が育つ学校」を学校教育目標に掲げ、自律、尊重、創造を重んじる生徒の育成を目指している。実態としては、学校行事や諸活動に積極的に取り組める生徒が多い。令和5年度より『学び合い』の考え方による授業実践に取り組み、全教科で実施してきた。これまでの成果として、クラス全員が主体的に授業に参加する姿が見られるとともに、積極的にコミュニケーションをとろうとする姿が見られた。課題として、めあてやめあてにせまる課題の設定の難しさや、学習内容の定着度合の見極めが難しいということが明らかとなった。また、『学び合い』の中での子ども達の気になる行動（私語やかたくなに動かない生徒）が見られたクラスもあり、授業と学級経営との両輪で研究をすすめていく必要がある。定期テストを廃止し、単元テストを実施しているが、定期テストより短いスパンで実施できることから学習意欲につながり、単元ごとに習熟度を確認できる利点がある一方で、昨年度行った家庭学習アンケートでは、平日、休日ともに家庭学習時間は極めて少なく（1、2年生は40～50分、3年生は80分）、計画的な家庭学習ができていないという課題が浮き彫りとなった。本校の当初の課題であった、学習に対して無気力な生徒が一定数いることも含めて、今年度はこれらの課題をクリアすることを目指す。

そこで、今年度は、1つ目の柱として『学び合い』の考えにより授業実践を継続させ、さらに質の向上を目指していく。具体的には、めあてや課題の設定の仕方を教科部会を中心に話し合い、子ども達の活動がさらに活発になるようにする。また、効果的な声かけの仕方を研修を通して学び、昨年度より、主体的な学びに向かう生徒の育成を目指す。また、『学び合い』の考え方を授業だけでなく、学校行事等の各活動にもいかし、一人も見捨てない集団づくりを学校全体を通して目指していく。2つ目の柱として単元計画表を授業者ごとに作成、生徒に配布することで、見通しをもった学習に取り組めるようにする。昨年度は、授業者ごとに作成していたが、教科部会や全体会を通して共有し、学習の見通しを持たせることを、単元テストに向けた計画的な家庭学習につなげ、本校の課題である家庭学習についての手立てとしていく。

また、本校では、周囲の人との人間関係のもち方の不適切さが目立ち、クラス内でのトラブルや不登校となる生徒が多い。生徒が周囲の人たちとどのように関わるのかという人間関係のもち方についても研修を積み、人間関係の基礎をなす社会的能力の向上を目指す必要がある。そのために、社会性と情動の学習（SEL）に計画的に取り組み、生徒の人間関係能力を育てていく。

『学び合い』による授業実践や単元学習計画表とSELによるより良い仲間づくりを研究の柱として、生徒全員が主体的に学習に取り組む力を育てるための授業づくりと一人も見捨てない仲間づくりに力を入れることとし、本研究主題を設定した。

3 研究組織

校 長					
教 頭					
校内研究推進委員会 (校長・教頭・教務・研究主任・研究副主任・部会長 計8名)				三校合同研究推進委員会 (国見中、東山代小、二里小)	
全 体 会 (職員全体による共通理解を図る)				三校合同研修会 (三校の全職員による)	
学力向上に向けた部会ごとの取り組み					
授業づくり部会		仲間づくり部会		調査分析部会	
教 科 部 会			学年部会		
国語科部会	社会科部会	数学科部会	1 年生部会	2 年生部会	3 年生部会
理科部会	英語科部会	技能教科部会			

4 各部会における取組

	授業づくり部会	仲間づくり部会	調査分析部会
内 容	『学び合い』の考え方を実現し、生徒全員が主体的に学びに向かう授業づくりの推進を行う。	生徒の人間関係能力を育て、支持的風土のある学級づくりを推進する。	生徒の実態分析や学習状況調査の分析と授業での学びを支える家庭学習の充実を図る。
部 会 員	石丸 吉田 前田 杵嶋 飯守 藤瀬 藏本	朝長 新澤 田中か 田中克 墨谷 福田	藤村 加賀 永野 山崎 東嶋 田中紘 西川

5 教科部会

	国語科部会	社会科部会	数学科部会	理科部会	英語科部会	技能教科部会
部 会 員	朝長 杵嶋 藏本	坂井 田中克 西川	江口 新澤 東嶋	加賀 山崎 藤瀬	石丸 吉田 飯守 福田	藤村 田中か 前田 田中紘 墨谷 野口

6 年間計画

推 進 委員会	校内研	三 校 合同研	期 日	内 容
1			4 月 4 日（金）	校内研究事前協議
	1		4 月 4 日（金）	『学び合い』について 主題設定について
2			4 月 26 日（金）	校内研究事前協議
	2		4 月 30 日（水）	主題設定の理由、各部会
3			5 月 30 日（水）	校内研究事前協議
	3		6 月 4 日（水）	研究授業について、教科部会
4			7 月 11 日（金）	校内研究事前協議
	4		7 月 16 日（水）	Canva、ラインズ研修会、各部会
5			8 月 19 日（火）	校内研究事前協議
	5		8 月 20 日（水）	デジタル採点研修、教科部会
		1	8 月 28 日（木）	三校合同研修会
6			9 月 18 日（木）	校内研究事前協議
			9 月 24 日（水）	市教委訪問
	6		10 月 22 日（水）	各部会
7			12 月 12 日（金）	校内研究事前協議
	7		12 月 17 日（水）	教科部会
			12 月 17 日（水）	各部会（今年度の取り組みの成果と課題）
8			1 月 5 日（月）	校内研究事前協議
	8		1 月 7 日（水）	教科部会（今年度の取り組むの成果と課題）
9			1 月 30 日（金）	校内研究事前協議
	9		2 月 4 日（水）	今年度の成果と課題
10			3 月 13 日（金）	校内研究事前協議
	10		3 月 18 日（水）	来年度に向けて